

令和5（2023）年度

公立大学法人長野県立大学の業務実績に関する  
評価結果報告書

令和6（2024）年9月

公立大学法人長野県立大学評価委員会

## 令和 5（2023）年度の業務実績評価について

公立大学法人長野県立大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）に基づき、公立大学法人長野県立大学（以下「長野県立大学」という。）の令和 5（2023）年度業務実績について、中期目標・中期計画に定められた項目の進捗状況または達成状況について評価を行った。

### I 評価の基本方針・評価方法

#### 1 評価の基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的にを行い、法人の中期計画の進捗状況を評定するものとする。
- (2) 評価は、教育研究の特性、自主性・自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (3) 評価の一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、地域社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 中期目標の達成を確保する上で、支障となると考えられる業務運営上の課題を明らかにし、業務の改善・充実に資する。
- (5) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや、次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。

#### 2 評価方法

評価に当たっては、「公立大学法人長野県立大学の業務実績評価に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）及び「公立大学法人長野県立大学の各事業年度の業務実績に関する評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて実施した。

#### 3 評価の手順（実施要領から抜粋）

評価は以下のとおり実施した。最終的な評定は、評価委員の合議により、意見をまとめ、評価を行った。

##### (1) 項目別評価

###### ア 小項目別評価

- ・評価委員会は、公立大学法人長野県立大学から提出された「令和 5 年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」等について、法人関係者からのヒアリング等により検証を行った。
- ・法人の自己点検評価の結果を踏まえて、進捗状況または達成状況を実施要領別表 1 に定める年度計画の小項目ごとに、実施要領別表 2 に定める評価基準により、「s、a、b、c、d」の 5 段階で評価を行った。
- ・なお、法人による自己点検評価の結果と評価委員会による評価の結果が異なる場合には、その理由を示すとともに、必要に応じて、大学の教育・研究等の質的向上、大学経営の改善の促進につながるよう、特筆すべき点や進捗が遅れている点等についてもコメントを付すものとした。

###### イ 大項目別評価

評価委員会は、小項目別評価結果を踏まえ、実施要領別表 1 に定める大項目ごとに、実施要領別表 2 に定める評価基準により、中期計画進捗状況または達成状況について、「S、A、B、C、D」の 5 段階で評価を行った。

## (2) 全体評価

評価委員会は、全体評価に当たって、大項目別評価の結果を踏まえ、実施要領別表2に定める評価基準により、当該事業年度における法人の中期目標及び中期計画の進捗状況または達成状況の全体について総合的に評価を行った。その際、長野県立大学の活動全体について記述式で評価を行った。

実施要領別表 1 : 年度評価における評価項目

評価区分	評価の対象、内容等
小項目別評価	年度計画の第2から第6の最小項目として記載されている各事項の進捗状況または達成状況 ※年度計画の第7から第12に係る実績は、全体評価の参考情報として用いる。
大項目別評価	事業単位評価及び指標単位評価を踏まえた中期計画における5つの大項目（8区分）ごとの進捗状況または達成状況
	1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 【教育に関する事項】（年度計画第2の1） (1)人材育成の方向
	2 (2)入学者の受入れ
	3 (3)教育の質の向上
	4 (4)学生への支援
	5 【研究に関する事項】（年度計画第2の2）
	6 【地域貢献に関する事項】（年度計画第2の3）
	7 【国際交流に関する事項】（年度計画第2の4）
	8 業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第3）
	9 財務内容に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第4）
	10 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第5）
11 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第6）	
全体評価	項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況または達成状況

実施要領別表 2 : 年度評価における評価基準

評価区分	評定	評価の基準	評価の目安
小項目別評価	s	中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	特に優れた実績を上げている（評価委員会が特に認める場合）
	a	中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	年度計画を達成している（100%以上）
	b	中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	概ね年度計画を達成している（80%以上100%未満）
	c	中期計画の進捗はやや遅れている	年度計画を十分には達成できていない（80%未満）
大項目別評価	d	中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	業務の大幅な改善が必要
	S	中期計画の進捗は優れて順調	特に優れた進行状況にある（評価委員会が特に認める場合）
	A	中期計画の進捗は順調	計画どおり進んでいる（すべてb以上）
	B	中期計画の進捗は概ね順調	概ね計画通り進んでいる（bからaの割合が80%以上100%未満）
全体評価	C	中期計画の進捗はやや遅れている	やや遅れている（bからaの割合が80%未満）
	D	中期計画の進捗は遅れている	業務の大幅な改善が必要（評価委員会が特に認める場合）
		中期計画の進捗は優れて順調	中期計画全体の進捗状況について、大項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期計画の進捗は順調	
	中期計画の進捗は概ね順調		
	中期計画の進捗はやや遅れている		
		中期計画の進捗は遅れている	

※「評価の目安」は、評価に当たり判断の目安を示したものであり、実績・成果の水準に加え、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・過程等、総合的に勘案して評価する。

## Ⅱ 全体評価

### 1 評価結果

#### 中期計画の進捗は順調

##### ○評価結果の概要

長野県立大学は、「長野県の知の礎となり、未来を切り拓くリーダーを輩出し、世界の持続的発展を可能にする成果を発信することで、人類のより良い未来を創造し、発展させる大学を目指す」の理念のもと、「リーダー輩出」「地域イノベーション」「グローバル発信」という3つの使命を掲げ、平成30(2018)年度から令和5(2023)年度の中期計画に基づき、教育・研究の質の向上や地域貢献活動に積極的に取り組み、令和5年度は中期期間の最終年度となる。

開学6年目となる令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5月に5類に引き下げられ、新型コロナウイルスによる影響が減少してきた一方、それまでの間に停滞していた取組を挽回すべく、教職員が一丸となって事業促進に努めた。

特に、国際交流では令和4年度時点の交換留学協定先は3大学であったが、1年間で新たに6大学と交換留学協定を締結し、9大学を増やしたことを評価する。

また、令和3年度から3年連続で就職率100%を達成しており、体系的な就職支援プログラムの導入、きめ細かいキャリア就職相談などを継続的に実施していることを評価したい。

さらに、海外プログラムの実施にあたっては、新型コロナへの

対応が過渡期にあり、各国の対応状況が異なる中で、渡航先の国ごとに危機管理対策を講じ、また2学年同時実施するなど、例年になく特殊な対応をし、海外プログラムを問題なく実施したことを評価したい。

英語教育については、2年次終了時までには全学生がTOEIC600点以上、平均点700点以上を目指す高い目標を掲げ、精力的に取り組んでいる。大学入学後の英語集中プログラムの実施により、学生の英語力の全体的な底上げはなされているものの、2年次修了時に留まらない更なる英語力の向上をめざす計画の達成に向けて、在学4年間を見据えた英語力向上の取組の見直しを含めた抜本的な対策が必要である。

また、科学研究費の毎年度新規申請率80%以上を目指すという目標値が達成されていないなどの課題も見受けられる。

年度計画を達成できなかった項目については、要因を検証の上、必要な対策を早急に検討するなど、一層の取組が望まれる。

理事長・学長をはじめとして、教職員全員が今回の評価結果における課題に対して共通認識を持ち、第2期中期目標・中期計画の達成に向けて引き続き取り組まれることにより、今後の法人運営の改善や大学の更なる発展につながることを期待する。

### Ⅲ 項目別評価

#### (i) 大項目別評価結果 (一覧)

評価委員会における小項目評価に基づく大項目評価の状況は以下のとおりである。本年度は小項目数が95項目となった。

大項目評価*				小項目評価					
				s	a	b	c	d	合計
1	1 教 育	(1) 人材育成の方向	B	0	16	3	1	0	20
2		(2) 入学者の受入れ	A	0	8	0	0	0	8
3		(3) 教育の質の向上	A	0	8	0	0	0	8
4		(4) 学生への支援	A	2	13	0	0	0	15
5	2	研究	B	0	5	0	1	0	6
6	3	地域貢献	A	1	7	0	0	0	8
7	4	国際交流	A	1	4	0	0	0	5
8	5	業務運営	A	0	8	0	0	0	8
9	6	財務	A	0	2	0	0	0	2
10	7	自己点検・評価	A	0	3	0	0	0	3
11	8	その他業務運営	A	1	11	0	0	0	12
項目数合計			11	5	85	3	2	0	95
割合 (%)				5.3	89.5	3.1	2.1	0	100

【大項目評価の目安】(実施要領：別表2より)

- S:特に優れた進行状況にある(評価委員会が特に認める場合)
- A:計画どおり進んでいる(すべてb以上)
- B:概ね計画どおり進んでいる(bからaの割合が80%以上100%未満)
- C:やや遅れている(bからaの割合が80%未満)
- D:業務の大幅な改善が必要(評価委員会が特に認める場合)

95の小項目中、s(特筆すべき進行状況にある)が5項目、a(順調に進んでいる)が85項目、b(概ね順調に進んでいる)が3項目、c(やや遅れている)が2項目となった。

#### (ii) 大項目別評価

1	教育に関する事項 (1)人材育成の方向
B	中期計画の進捗は概ね順調

20個の小項目中、16項目がa(順調に進んでいる)、3項目がb(概ね順調に進んでいる)、1項目がc(やや遅れている)と認められ、大項目評価はB(中期計画の進捗は概ね順調)となった。

1の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	17	1	1	0	20
	割合(%)	5	85	5	5	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	16	3	1	0	20
	割合(%)	0	80	15	5	0	100

#### ▽評価できる点(sかa評価のうち特記できること)

- ・学長との個別面談の機会があるのは、長野県立大学独自の素晴らしい取組であるので、ぜひ引き続き実施していただきたい。
- ・グローバルマネジメント学部について海外プログラムを2学年同時に実施したことは、事務的に大変な労力を要したと推察され、大学の努力を評価する。
- ・目標達成のため種々の具体的な対応がなされ、TOEIC 平均点を伸ばしたことを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・グローバル教養ゼミを開講したことは評価するが、受講者数が少ない状況であるため、当該ゼミの魅力を学生に丁寧に説明し、受講生を増やす努力が必要と考えられる。
- ・英語集中プログラムについて、計画では1クラス25人程度の少人数クラスにより行うとしているが、32人のクラスがある状況であり、入学者数によって少人数クラスの維持に影響が出ないように尽力いただきたい。
- ・開学当初の海外プログラムの参加の趣旨は、海外へ渡航することを原則としており、渡航を伴わないオンラインを主とした補完的プログラムの参加者87名（海外プログラム参加者全体の25%）を参加者に算入した上で参加率100%の状態はs評価と判断できない。
- ・3・4年次の学生を対象に、高度なリーディング能力とライティング能力をめざす科目、高度なコミュニケーション能力を養う科目、高度な英語力と世界の文化・社会に関する教養を同時に涵養する科目の3種類の開講については、受講者が少なく、英語集中プログラム履修後も英語力向上を目指すというこの講義の開講の意義が果たされていないと考えられる。
- ・2年次修了時のTOEIC点数の目標（全学生600点以上、平均点700点以上）を達成していない。

<b>2</b>	<b>教育に関する事項 (2) 入学者の受入れ</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

8個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

2の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

<b>3</b>	<b>教育に関する事項 (3) 教育の質の向上</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

8個の小項目中すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

3の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

<b>4</b>	<b>教育に関する事項 (4) 学生への支援</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

15 個の小項目中、2 項目が s (特筆すべき進行状況にある)、13 項目が a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A (中期計画の進捗は順調) となった。

4 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	2	13	0	0	0	15
	割合 (%)	13	87	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	2	13	0	0	0	15
	割合 (%)	13	87	0	0	0	100

#### ▽評価できる点

- ・地域を巻き込んだプロジェクトの実施には困難が伴い、かつ労力のいるところであるが、学科ごとの地域連携が出てきていることを評価する。
- ・キャリア形成や就職に関するきめ細やかな対策が継続的に実施されていることを評価する。

#### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・参加した学生の満足度が高く、折角の機会であるため、より多くの学生が参加するように働きかけていただき、より効果の高い象山未来塾にしていきたい。
- ・経済的事情により学問の継続が頓挫することのないように、年度計画に記載のある金融機関等との連携による支援に取り組まれない。

- ・県内の管理栄養士の求人開拓を計画に掲げており、精力的に求人開拓に取り組んでいるため、今後は実績報告書を含めた大学の取組を紹介できる場面で、取組について詳細を記載いただき、大学の長所を積極的にアピールいただきたい。

<b>5</b>	<b>研究に関する事項</b>
<b>B</b>	<b>中期計画の進捗は概ね順調</b>

6 個の小項目中、5 項目が a (順調に進んでいる)、1 項目が c (やや遅れている) と認められ、大項目評価は B (中期計画の進捗は概ね順調) となった。

5 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	1	0	6
	割合 (%)	0	83.3	0	16.7	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	1	0	6
	割合 (%)	0	83.3	0	16.7	0	100

#### ▽評価できる点

- ・科学研究費補助金の採択率の実績を評価する。

#### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・科学研究費補助金の継続者を除く新規申請率は、昨年より上昇しているが、年度計画の目標が未達成であり、教員が研究にも力を注げる環境がつけられることを期待する。

<b>6</b>	<b>地域貢献に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

8個の小項目中、1項目がs（特筆すべき進行状況にある）、7項目がa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

6の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	7	0	0	0	8
	割合（%）	12.5	87.5	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	7	0	0	0	8
	割合（%）	12.5	87.5	0	0	0	100

#### ▽評価できる点

- ・非常に多くの企業、県の機関、市町村等と連携し、地域課題解決や地域イノベーションの実現に向けて取り組んでいることを評価する。

#### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・参加学生の満足度が高く、折角の機会であるため、より多くの学生が参加するように働きかけていただき、より効果の高い象山未来塾にしていきたい。（再掲）

<b>7</b>	<b>国際交流に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

5個の小項目中、1項目がs（特筆すべき進行状況にある）、4項目がa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

7の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合（%）	20	80	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合（%）	20	80	0	0	0	100

#### ▽評価できる点

- ・1年間で新たに海外の6大学と交換留学協定を締結したことを評価する。

#### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・海外プログラムに関して、これまで渡航を伴わないオンラインを主とした補完的プログラムはコロナ禍から移行期の特別な措置としていたが、今後は特別な事情がある場合を除き、原則、現地渡航としていただきたい。

<b>8</b>	<b>業務運営に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

8個の項目中すべてが a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価はA (中期計画の進捗は順調) となった。

8の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100

<b>9</b>	<b>財務内容に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

2個の小項目すべてが a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価はA (中期計画の進捗は順調) となった。

9の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100

<b>10</b>	<b>自己点検・評価及び情報の提供に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

3個の小項目すべてが a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価はA (中期計画の進捗は順調) となった。

10の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100

<b>11</b>	<b>その他業務運営に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

12個の小項目中、1項目が s (特筆すべき進行状況にある)、11項目が a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価はA (中期計画の進捗は順調) となった。

11の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	11	0	0	0	12
	割合 (%)	8	92	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	11	0	0	0	12
	割合 (%)	8	92	0	0	0	100

#### ▽評価できる点

- ・海外プログラムの実施において、新型コロナへの対応が過渡期にあり、各国の対応状況が異なる中で、渡航先の国ごとに危機管理対策を講じ、また2学年同時実施するなど、例年になく特殊な対応をし、海外プログラムを問題なく実施したことを評価する。

#### 参考意見

評価結果報告書【資料編】のコメントには記載していないものの、法人運営全般の改善や教育・研究の質の向上を目的として、法人への期待や要望、今後参考となる事項について「参考意見書」としてまとめた。

○評価の経緯

令和6年6月28日	「令和5年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」の公表・提出 (法人)
7月16日	公立大学法人長野県立大学評価委員会 法人ヒアリング ・業務実績報告書についての評価委員からの 質問に対する法人からの説明、質疑応答
7月31日	第2回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
8月8日	第3回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討 ・大項目・全体評価の検討
9月3日	第4回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・評価結果報告書の検討
9月18日	評価委員会から知事へ「令和5年度公立大学 法人長野県立大学の業務実績に関する評価結 果報告」の提出

○公立大学法人長野県立大学評価委員会委員

(五十音順、敬称略)

職	氏名	役職名
委員長	山沢 清人	信州大学 名誉教授
委員	伊藤 かおる	(株) コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
委員	久保田 明雄	久保田法律事務所 弁護士
委員	清水 さゆり	高崎経済大学 経済学部国際学科 教授
委員	山浦 愛幸	(一社) 長野県経営者協会 名誉会長 (株) 八十二銀行 顧問